

社会福祉協議会が取り組む福祉教育

社会福祉協議会が取り組む福祉教育には、「子どもの心の豊かな成長」と「地域福祉の推進を図る」という2つの目的があります。

子どもたちが「ふくし」というテーマを通して、自分の住んでいる地域の福祉環境について知り、相手の立場に立って考えられる力。人とのつながりの大切さを知ること。だれもが、**ふ**だんの**く**らしの**し**あわせを実現できるということ。を学べるように、『ふくし教育プログラム』として、疑似体験や福祉講話、障害のある方との交流などを実施しています。また、総合的な学習の時間の一部として、先生方の授業のお手伝いをすることもできます。

ふくし教育プログラム



福祉講話

社会福祉協議会の紹介の他、「ふくし」とは何か、身近にある障害やバリアフリーについて、地域の福祉環境などを知り、福祉が身近なものであることを学びます。



車いす体験

ハンディキャップのある人の立場を理解し、車いすの基本的な操作方法や介助の仕方を体験します。



高齢者疑似体験

体験装具を装着し、高齢者の日常生活を疑似体験することにより、加齢による身体の変化を知り、気持ちやサポート方法を学びます。



アイマスク体験

2人1組になり、ガイドをする側・される側（アイマスク着用）を交互に体験し、視覚障害のある人の気持ちや適切なサポート方法を学びます。



点字体験

点字の仕組みを学び、点字器で実際に点字を書く体験をし、障害をもつ人のコミュニケーションについて学びます。



手話体験

簡単なあいさつや自己紹介の手話を体験し、障害をもつ人とのコミュニケーション手段について学びます。



障害者との交流体験

障害のある当事者とのかかわりを通して、お互いを正しく理解し、共に助け合って生きていくことの大切さを学びます。



赤い羽根教室

地域福祉に取り組む民間団体を支援するしくみとして、また、市民のやさしさや思いやりを届ける運動として、共同募金運動への理解・関心を深めていただきます。



ボランティア講話

ボランティアの基礎知識の他、市内での活動や収集活動の紹介を通して、身近なところからできる支え合い活動であるボランティアへの関心を深めていただきます。

*疑似体験や点字、手話体験などは技術習得が目的ではありません。身のまわりや地域にはさまざまな人たちが生きていることを知り、障害のある人の立場に立ったり、自分との関わりを考えながら、共に生きていくために必要なこと、大切なことは何か、を考えるきっかけになればと思っています。

お問い合わせ先：富岡市社会福祉協議会（電話：70-2232）

学校と社会福祉協議会との協働の進め方

富岡市社会福祉協議会には、福祉教育を担当している職員がいます。どんな目的で、どのようなことがしたいのか、具体的な計画をたてる前からでかまいませんので、お気軽に社協までご相談ください!!

TEL0274-70-2232

社協への相談から、実施までの流れ（例）

